

会 議 録

会議名	令和元年度 第3回 菊川市総合計画審議会
日 時	令和元年2月5日(水) 午後3時30分から
場 所	菊川市役所 本庁2階201.202会議室
出席者	総合計画審議会委員9名、副市長、教育長、総務部長、危機管理部長、企画財政部長、生活環境部長、健康福祉部長、こども未来部長、建設経済部長、教育文化部長、消防長、病院事務部長、企画政策課長、企画政策課政策係
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 第2期菊川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン&総合戦略(案)について 4 閉会
議事要旨	<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会宣言 ・出席者数確認(15名中9名 会議成立) ・資料確認 <p>2 会長あいさつ</p> <p>皆さんこんにちは。地方創生も第2期を迎えますが、どうも第1期はだいぶ評判が悪くて、最近雑誌にも出まされたけれども、幻の地方創生とも言われています。まったくそのとおりでして、地方創生ではなく中央創生のような感じで、中央の官僚の息が上がっており、なんとなくおかしな感じがしていると思います。しかし、批判ばかりしていても仕方がないので、自治体はこのような交付金を配るときには、地方色を出して交付金を取りに行くといったしたたかな姿勢でいなければいけないと思っています。今日は最後のまとめになりますが、少し事務局には厳しいかもしれませんが、こうした意気込みをぜひこの戦略に反映できるように皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>3 議 事</p> <p>事 務 局： それでは、これより議事に入ります。議事の進行につきましては、菊川市総合計画条例第17条によりまして、会長に議長をお願いいたします。</p> <p>会 長： それでは、菊川市総合計画条例第17条により議長を務めさせていただきます。本日の議題は、第2期菊川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン&総合戦略(案)についてということになります。それでは最初にこの議事について事務局の説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">《事務局説明(資料1～3)》</p>

会 長： ありがとうございます。国の総合戦略の方針と中身をすり合わせており、洗練されてきていますけれども、前回は意見が出ましたがパンチのあるものが欲しいとも思います。それではただいまの説明に対してご意見等を出していただけますでしょうか。よろしく申し上げます。

委 員： 最初に質問をさせていただきたいと思います。我々は事務職なので最後は市民の皆さんに説明するときに、今回の総合戦略はここに重点を置いているといった特徴を教えてください。先ほど会長がおっしゃられたとおり、少しわからないところがあるので、どうやって説明していくのでしょうか。特に資料1の4ページで立てつけを変えられて新しい事業が入っていますが、これも見てみると結局のところ元々あった事業がそのところに付け加えられているように見えるので、新たにこういうことをやりますといったことがあればいいのかと思います。やはり市民へアピールする部分があるのかと思いますが、その辺りはどのように考えていますか。それからもう1つ、根本的なところですが、人口が均衡になる合計特殊出生率は2.06 でしたでしょうか。私の認識では2.07 だったと思いますがいかがでしょうか。

事 務 局： この戦略を市民にどう説明していくのかというご質問についてですが、今回はまず第1期を検証し、その結果、県内では人口が増加しています。日本人の人口は減っていますが、県内では減少数が少ない状況です。それを外国人が補って、トータルとしては人口が増えている状況です。狙っているところとしては、菊川市のやってきたことは5年間の戦略だけではなく、過去の基盤整備も含めての成果だとは思っており、第1期としてはいい結果が出ているのではないかと考えています。その考え方を第2期にも引き続き行っていくというのが資料1の3ページの「Ⅰ 未来を支えるまちづくり」の移動率を改善する、出生率を高めるということが第1期から引き続き重点的に取り組むところになります。特に新しい事業や目玉がないというご指摘も含まれているかと思いますが、ここに紐づく事業には新規事業が少ないですけれども、第1期の時にはいろいろな事業をやれば補助金が付くということで事業を頭出しすればある程度のものは賄えるという状況でした。今回はそういうものはありませんので、現在の事業をベースに新しいものが入り入れられないかを考えているところでございます。それから、先ほど担当からも説明がありましたが、戦略といっても人口のことだけではなく、住むにあたってはまちの安全性や利便性などについても戦略として考える必要があるという県の方針もあります。そういったことを踏まえて「Ⅱ 魅力を高めるまちづくり」ということで、多様な人材の活躍推進、働きやすい仕事面、安心できる生活環境面などに組みたいと考えています。進めていくと総合計画化してしまうところも当然ありますが、国の方針もそうなっておりますし、私どももこれがベースになって、例えば子育て支援策があって、合致して人口が増えていくと理解しております。前回の会議でもメリハリがないとご指摘があったと思いますので、「Ⅰ 未来を支えるまちづくり」、「Ⅱ 魅力を高めるまちづくり」でメリハリを付け、Ⅰについては、移動率の改善と出生率を高めるために住宅取得補助金等を継続していき、Ⅱで特

に目玉にしていくものとはという働く場の確保や事業承継等であり、すぐに事業化するまでには至っておりませんが、そういうところを補完していくという考えがあります。あるいは、生活環境のなかで都市基盤についても、人が住むにあたって移動の利便性をさらに高める考えもありますので、事業そのものが新しいものではありませんが、全体をとおした中では新たな取り組みを考えております。そうした第1期を踏まえたうえで、補完をしながらやっていくことを説明していきたいと考えています。それから、出生率の2.07については国の言っている数値だと思いますが、2.06は菊川市の子ども・子育て支援事業計画を策定した際のアンケートの数値で、理想の子どもの数が何人かに基づき算出した合計特殊出生率2.06となっています。

委員：ありがとうございます。意見として1点言わせていただきます。前回、この会で発言されたことが印象に残っておりまして、この人口の移動の中でもはっきりしているのが、日本人の年代別の転出・転入数ですけれども、10代後半で転出数が超過するのは大学進学が考えられ、男女共に同じ比率になっていますけれども、20代前半の転入数が女性だけ低くなっている。委員からは、女性にとって必ずしも住みやすいまちじゃないという意見をいただいている、すごく頭に残っています。ただ、それに関しての対応案は持ち合わせていないので、今後も考えていかなければいけない課題だと思います。

会長：ありがとうございました。他に意見はありますか。

委員：話を聞いていると移動率の改善を維持し、出生率を向上させることにより、現在の人口ビジョン36,000人を引き続き目指すことが一番の目標で、それを業務目標にすると、「Ⅰ 未来を支えるまちづくり」、「Ⅱ 魅力を高めるまちづくり」ということだと思います。ここまでは良いのですが、これはあくまで役所という行政側の言葉だと思います。これを市民や市外の人聞いたときには、「菊川ってそうなんだ」と感じる言葉に置き換えなければいけないと思います。優しい言葉でありながら、菊川市はこっちを目指しているという言葉、スローガンみたいなことになりますが、この言葉を作り出すことがとても大切で、そうすれば市役所がやっていることが市民の皆さんにも通じますし、市外の皆さんにも通じます。できれば、その言葉を駅の看板に1枚書いて、その下に「菊川市は静岡県内で一番人口が増えている所です」と書けば、通る人がみんな菊川市はそういうまちだと感じてくれます。そういうことをしないと、菊川市には人は帰ってこないと思っているし、そもそも人口が増えているという幸せな結果を持っているまちは他にないですから、この素晴らしい結果を活かさない手はありません。それと菊川市は本当にいいまちで実績として人が集まってくるんだということを言わなくてはならない。この戦略の冊子でいうと、人口ビジョン&総合戦略の下に優しい言葉でみんなに伝わる言葉が入ることが大切だと思います。このスローガンについては、隣の牧之原市は、地域おこし協力隊の人で東京で広告代理店に勤めていた方が来てくれて、住民投票（住民以外の人でも投票可能）で市のスローガンを決定

しています。それくらい大切なことなのです。菊川市は私も実家があり関係していますが、昔から何にもない所だと言い続けて、みんな信じ込んでいるところがあります。そうじゃなくて、こんなに素敵な所なのだという言葉に変えて、人を呼び寄せるような方向に向かってほしいと思います。

会 長： ありがとうございます。事務局からは何かありますか。

事 務 局： スローガンということでありますけれども、私どもとすると今回、基本目標Ⅱで挙げさせてもらいました「魅力を高めるまちづくり」が1つの方向性かなと考えております。市長は、住みよさナンバー1のまちと常々言っております。市長の言葉を行政に直接当てはめて良いかという部分は検討する余地がありますが、魅力あるまち、住みよさナンバー1というのが第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性であったり、スローガンであったりの少しのヒントになるのかと思っております。このあたりは、総合計画を含めまして内部で検討させていただきまして、スローガンのものを入れさせていただければと思っております。

会 長： 1つのサジェスションですけれども、県立大学の岩崎教授が「観光ブランドの教科書」という本が書店でも販売されており、先ほどの内容に関する発想やヒントがたくさんあります。ナンバー1と2位、3位では全く違うとかシンガポールはマーライオンで発信力としては絶大な効果があるなどスローガンやキャッチコピーなどアピールする言葉の事例がいろいろありますので、参考にさせていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。

委 員： 農業についてですが、魅力を高めるまちづくりに「市内への新規農業者数」という項目がありますが、私としては「市内の農業事業所に勤める社員数」という言い回しの方が良いのではないかという気がします。農家の数については、生産性も悪いので今後減らしていった方が良いと思っております。農業の事業所数を増やす、農業に携わる人を増やすことはいいのですけれども、社員という形の方が良いと思います。この場で農家を減らすということは言えないので、社員数を増やすという表現が良いのかと思います。

会 長： ありがとうございます。では、事務局お願いします。

事 務 局： この指標については、第1期は目標の中にあった数字であります。実際の積算としましては、農業委員会の中で出た新規農業者数と市内にある農業法人の新規従業員数から算出しています。表現の仕方がどういうものが良いかを考えて、必ずしも個人農家がすべてやるのではなくて、ある程度農業に携わる人が見える指標に言葉を考えていきたいと思っております。

会長： 資料を配っていただきましたが、農人といひまして、農業生産法人「こと京都」の資料ですけれども、九条ねぎで非常に躍進しておりまして、私も講演会を聞きました。勤務形態として、私はグリーンカラーと言っておりますけれども、そういう形に移ってきています。農業の一部分に過ぎないところはありますが、先ほど委員がおっしゃったように主体を今までのイメージから変えて、新しい方向性を示した指標を出したほうが良いと思います。会社勤めのような形で携わりながら、自然を相手に素晴らしい職業になってきていて、法人の代表者曰く、農業の将来は明るくなってきており、中国など海外の脅威よりも日本の優位性が明らかになっているとも言っています。そういった明るさや新しい局面を強調するそんな指標も含めて検討していただければと思います。後ほど、詳しい委員に具体的な作戦をお聞きしたいと思っておりますけれども、まず先に各委員から意見をお聞きしたいと思います。

委員： 防災について、意見のような話ですけれども、防災のKPIは市外の人から見て、菊川市は防災対策が良いからそこに住もうと思わせたいのは当然だと思います。これは仕方がない話ですけれども、冊子を見ると、補助金出して備蓄食料を蓄えているとか地域防災組織を作らせますとか防災訓練をやっていますという話ですよね。市外の人が見て、どこに住もうかと考えた時に、あそこなら市内に補助金出しているからそこが良いと思うのかといえば疑問です。逆に防災に関してどういう状態なら安心できるかといえば、菊川市といえば安全な所だということだと思います。ただ、非常に微妙で裏腹なところもあります。菊川市は津波がきません、地盤も悪くないですというところとそういう危険性のある地域も存在しますので、非常に声高にも言いにくいですが、本音としては、菊川市は津波も安心できるし、地盤についてもハザードマップでは液状化が心配されていますが、液状化も細かく分析すると菊川市全体はそんなにひどくないです。地層が砂地の場所とは違いますし、地下水が多いとか細かい条件を見ていくと、ハザードマップほど危なくはない。その辺りの言い回しを少し変えて、何となく菊川市は安全だ、原発も遠いといったイメージを植え付ける方法はないのかと思っています。これは意見ですけれども、これを見るとそんな感じを受けます。

委員： 少し補足させていただいてよろしいですか。

会長： どうぞ。

委員： 少し補足させていただきますと、吉田町は海のそばで津波が来ると危ないといわれております。その吉田町では、道路の上の歩道橋を避難タワーにしています。そのことを吉田町内の運送会社では、大型トラックに写真を付けて走っています。町長が言うには、こうやってみんな地震防災に取り組んでいるから安心ですよという言い方をしている。ですから、防災をしっかりやっている、安全な場所であるということは、皆さんが来てくれるとても大切な要素になると思いました。

事務局： 委員がおっしゃられたように、防災をPRするということはいいい面も悪い面もあります。ただ、いま方向性として、これからハザードマップが公開され、不動産取引においても周知事項にしたかどうかという議論もされていると聞いております。そうすると、市民や転入されてくる方の思いとすると、このまちは安全なのかどうなのかということに非常に興味を持たれるのかと思います。そういった意味で、先日の台風19号も含めて、今後、ハザードマップを作成し、市民や市外の方に危険度をどうお知らせしていくのか、例えば、ハザードマップを出すときに、これまでは100年に1度の災害を想定したマップで良かったものを1000年として最大限を想定したものを出したり、この情報はこういう目的のために出された資料ですということをつけ加えて、誤解を与えないようにすることが必要なのかと思います。それを関係する皆さんに知ってもらうことが大切なのかと思います。そういった取り組みも考えていきたいと思えます。また、先日、静岡新聞に静岡大学の内山教授が書かれていた記事ですけれども、いまの意見に相反するものですが、内山教授は防災の専門家として、ハザードマップを見て住むところを決めるのはなかなか難しいとコメントも出ていましたので、防災だけでなくそれ以外の魅力という点も重要であると私自身は感じているところがあります。

会長： 蛇足ですけれども、NHKで首都直下型地震が来た場合の特別番組をやっています、私も就職の時に同じような危険がすごく叫ばれていて、決して若い人を脅すわけではないですけれども、いま主な職種は東京へ目指していますが、そこにはリスクがあることを市内の青少年に私は知らせておくべきだと思います。東京へ行く覚悟をするのであれば、リスクまで含めて、居住地や仕事を決めるべきだと思っています。これは防災だけの話ではないですけれども、そういうことも大事ではないかと思えます。はい。続きましていかがでしょうか。

委員： 難しいことはわかりませんが、すべての分野について菊川市はアピールが下手なんじゃないかと思えます。私は子どもが3人いて、高校1年生の娘が、私は高校を卒業して東京に行くと言っています。私の家は山の方なので、すごく地盤が固くて震度3以上くらいにならないとそんなに揺れを感じない所なので、いまは安全に住んでいるけれども、東京に行ったら怖いよとは常々言っています。けれども、やっぱり菊川って何にもないっていうのが一番にあり、高校生から20歳前後の子が都会にあこがれる気持ちはわからなくはないので、一度都会に出てみて、やっぱり自分が住んでいた菊川市がいいと思って戻ってくるようなそんなまちになればいいなと思っています。菊川市外の人にも、菊川市ってこんなにいいところだよというアピールの仕方を考えていったらいいのかと思います。

会長： ありがとうございます。一通り各委員からご意見をお願いします。

委員： よく練り上げた内容だと思って見ておりました。急激に変わるということは難しい

ことですから、言葉のうへの表現方法一つになってしまうのかと思います。私も高校を出て4年間東京にいましたが、早く地元に戻りたいと思っていたものですから、無理して帰ってきてよかったと思って50年が経ちました。東京へ行くということは勉強をしに行くことであり、地元になれないからそのために行くということだと思います。いまの若い人たちが華やかな東京にあこがれるということではないと思います。進学したいと思ったら、進学先が東京や関西などということで、出ていくことが男性も女性も多いと思いますし、行ってしまうと大学3、4年生になって就職先を考えた時に、菊川市に戻っても希望する就職先がないのでそのまま残ってしまい、特に女性にその傾向が強く、そのうちに結婚ということになってしまうのかと思います。私は菊川市がいいところだと思って帰ってきたのですが、いま東京へ行く人の気持ちと合っているかはわかりません。菊川市内にはいろいろな会社や工場がありますが、そこに就職するきっかけが地元の求人を見て入る方が多いのか、それとも学校で紹介されて入る方が多いのかその辺はわかりませんが、菊川市が他の市町に比べて特別に劣っているわけではなくて、他の市町も菊川市と同じように転出する人が多いのが実情だと思います。人口の減少については、全国平均を見ても、菊川市も全国平均にあっていると見ていますけれども、菊川市は外国人の就労者がすごく増えていて、3,500人近くおりますけれども、これもいつまで多くなるかわからない。この戦略の中でも、今の同じ数字が続くようになっていきますけれども、出生数よりも死亡数が上回るので、どうしても住んでいる人口が減少傾向にあることは全国的に見てもやむを得ないと思います。戦略を見ていくと、将来に希望を抱ける数字がうたわれていることから、この通りの数字になれば菊川市は御の字だと思います。それから、生産人口が64歳になっていますが、いま私は70歳近くになりましたけれども、私の友人を見ても就労している人が多くいます。時間は8時間ではなく、6時間や半日という人もいます。私のように何にもしていない人の方が少ない気がします。平均寿命も伸びていますので、64歳を過ぎてもまだまだ仕事ができます。農家の場合は定年なんてありませんからね。元気なうちは働けるということで、80歳、90歳になっても働いている人はいます。その点を考えてもあまり悲観することはないのではないかと思います。あまり意見が言えなくて申し訳ありません。

会 長： 私の友人でも東京などで就職した人たちは65歳になると仕事がなくなってしまう。だから、地方の方がそういう面では良いですね。そういうところは意外と指摘されていないのですが、生涯働けるという点は良いと思います。

委 員： 少し意見等を言わせてもらいますけれども、各委員から出ていたPRやスローガンについてですが、私は昔、県の職員として企業局の関係で平尾団地の分譲にかかわったのですが、あの時、青葉台はすぐに売れまして、その後の平尾団地の分譲時は、ちょうどバブルの頃でしたので、坪数を100坪以上にして2世帯で暮らせるように住宅環境を整備したら、バブルが崩壊し、一時期売れない時があって苦労しました。その時もそうですが、私が青葉台に移り住んで、北海道から来た人に聞いたら、定年退職後にどこで暮らそうか考えていたそうで、北海道は毎年雪かきをやるのが大変だから嫌なので、どこか環境の良いところを探していたら菊川があり移住してきたそうです。そういうことを考えると、菊川市をPRする時にターゲットをこの周辺の人に

してはダメなのです。この周辺の人には菊川市のことをみんな知っている。だからPRしなくても大体わかる。そうすると、菊川市へ移り住んできてもらうのはもっと遠いところの人で、広くPRできるようにホームページを充実したりすることが必要だと思いました。中身に入りますが、総合戦略の体系図のまとめがある資料1の3ページですが、基本目標をI・IIとして、それで基本施策を載せたわけですが、切り口が違う基本施策を2つ併せて同じ方向で話を進めています。構成としておもしろいのですが、これまでの計画の目標だとか施策の立て方からすると少し違和感がありますが、おもしろいから是とします。それはいいと思います。それから基本施策の中身に入ると「多様な人材の活躍を推進する」がありますが、その中の取り組みで、最初に説明していただいた多文化共生社会の取り組みの主な事業がありますが、取り組みの中身を見ますと、外国人支援の事業が並んでいます。支援はベースですから一番大事だとは思いますが、それに加えて、菊川らしさを出すのであれば、その外国人を活用する施策展開がここに見えてくると良いのではないかという気がしています。そういう視点が弱いのではないかと思います。それからもう1つ「働きやすい環境を実現する」で雇用・労働環境の整備というのがありますが、私はいま福祉分野で法人の仕事に携わっていますが、福祉分野の仕事では女性が多く、交代勤務（夜勤）もある大変厳しい労働環境です。賃金も低いとなると、長く勤務する方がいらっやらない。勤めてくれてよかったと思ったら、すぐに辞めて、どこかに行ってしまう。同じ分野で職場を渡り歩いている方もいる状況です。福祉の施設の運営は国の制度の中にあるため、自由に給料を上げたり、福利厚生を良くしたりはなかなかできない。それには制限がある。その時に、これから市独自でやれる事業はなかなか少ないと思いますが、これからこの地域でも福祉分野の需要は高まるし、良質で安全なサービスを提供することは絶対目的として必要になりますので、こういうことを考えると、福祉分野の雇用に絡めて、皆さんがそこへ就職・仕事を見つけやすい環境をつくるために、何か積極的な施策展開がこの地域としてできないかということをご期待して言います。

会 長： ありがとうございます。

委 員： 先に1つ質問します。資料1の4ページで「I 未来を支えるまちづくり」の主な取り組み「②幼児教育・保育の充実」の主な事業に「放課後児童クラブの充実」がありますが、私の頭の中で言葉が色々交錯していて、放課後児童クラブと放課後子ども教室は違うのですよね。

事 務 局： 放課後児童クラブは、子どもの預かりをする場で、放課後子ども教室は地域の人によって教室を行っています。

委 員： わかりました。放課後子ども教室は戦略には入っていないということですか。確か放課後子ども教室は希望者だけですかな。でも事業のどこかに含まれているみたい

ですね。それはわかりました。一通り戦略の冊子を読ませてもらいまして、前回のものと比較する中では、先ほど委員もおっしゃっていましたが、無難にまとめたなというところがあると思いますが、前のものは事業を一通り並べられていたものが、段階をおってまとめられた作り方になっているので、私は結構考えられたのではないかと思います。これを読んでいくと総合計画のイメージと重なってきましたが、これはしょうがないことです。総合計画と別のことをやってもあまり意味がない。戦略をやることで総合計画が進んでいき、総合計画が進むことで戦略が出来ていく方が効率的で良いという気持ちもありますから、私はこの形で支持していきたいと思います。それと、菊川市の人は皆さんまじめですから、はったりもないし、パフォーマンスもあまり上手ではないから、こういうまとめ方になるのは悪いことではないと思います。外へのアピール力は確かに低いかもしれないですけども、それが菊川の1つの文化みたいなもので、菊川市に入ってくる人たちはそれを結構受け入れている。あまり突拍子のないこともしない代わりに、失望することもないので住民は溶け込んでくれるのではないかと思います。それから、私が思うに菊川市とか他の市町が事業を進めていっても決定的にカバーできないことは出生率だと思っています。出生率を2.0%にする1.8%にするという目標は逆算して出した数字ですよ。そんな机上で計算した数字が達成できるはずはないし、もっと根本的なことをやらなくてはいけない。これは市町だけでなく、国がしっかりと状況をつかみ、どうやって改善していくかを考えないと人口減少は止まらないと思っています。これが5年、10年で止まるわけがなく、この局面に入ったら、30年、50年のスパンで動いてくることですから、出生率については、私は気休めみたいな感じで考えています。これは菊川市の戦略だけではなくて、国が言っていることも気休めのような受け方をせざるを得ないのが私の本当の気持ちです。結婚もなかなかしない、子どもが産めないといったその背景は、個人の生活に関わってくることでありますから、ある一線から向こうになかなか踏み込めない点はあるのでしょうけれども、社会や時代の変化が背景にあります。今はっきりしているのが女性のキャリア志向です。女性のキャリア志向が高くなるほど、家庭をもって子どもを育てることは難しくなります。それと反対に、男性の貧困化があります。要するに家庭とか家族に対する男性の貧困は、いま大学を出て、その後に自分の生活や家族に対する気持ちがどれだけあるかといえば、私は弱いと思います。その一端が非正規での労働です。いま男性で22%ですよ。その方は正規の所得の1/3くらいだと思います。いま半分なんてとてもありません。なので、家庭を持つなんてことは現実不可能ですよ。それから、男女ともに言えることがもう1つあって、自分個人の生活を真ん中において、いまを楽しむといった社会がここ数年続いています。このような社会をどのように変えていったら、ひとり一人が家庭をもって、子どもを育てられるかということかと思っています。これは教育もあるだろうし、企業を含めた社会全体がそれを可能にするようなことをやっていかないといけないのだらうと思います。だから、日本全国でできていないのに、ただこの数字を挙げて出生率を高めるのは難しい。だいたい行政がそうですけれども、子どもが生まれて育てることに支援ができますが、子どもを産むことに対する支援はできない。そこにすごくジレン

マというかギャップというものが、この戦略を作る中にも入っているのだろうと思います。それをこの戦略だけでなく、いまの日本の何か縮図を象徴しているのかと感じています。

会長： ありがとうございます。なかなか構造的な要因で、日本全国で人口移動、人口減少が進んでいますので、そこにメスを入れられない限り、それを反転させたり緩和させたりというのは難しい。残念ながら、国は全くそういう構造的なところにメスを入れていない。しかし、これではどんどん衰退するばかりですので、地方もがんばってお金を取ってこななければいけないと思います。時間もだいぶ過ぎて残り少なくなりましたが、こうした総合戦略は何のために作るのかというと、簡単に言えば地方創生交付金を取るということです。独自財源でやればいいのしょうけれども、やはり外部からの特定財源を取ってきて、菊川市の推進するところを見つけていくことが目的だと思います。私個人としてですが、資料1の体系図を見ると第1期の戦略と比べるとアクセントがにじみ出てきているのかと思います。1つは、「郷土愛を育み、定住を促進する」ですが、これは県内でも率先してやっていただいて、相当有名になっていると思います。これは地方創生交付金を取っていないと思いますが、これをもし出していけば交付金をとれたと思います。これは第2期の戦略にも盛り込まれておりますので、非常に先導的であったと思います。ですから、ここはかなり強烈に肉付けしてアピールすべきかと思います。そして、ある種のキャッチコピーを付けて、例えば「ふるさとサステイナブル（持続可能な）戦略」とか。私はもともと軽薄なものですから、前に「80年代通算ビジョン」とか県の総合戦略でも考えていまして、そういったいい加減さがものを動かすというのを見ているので、最初は中身がなくても、だんだんと事業が始まってついていくこともありますというのが1つです。2つ目は、多文化共生という言葉がかなり使い古された言葉になっていますが、ここについても菊川市にとっては外国人の転入者も多いことがあって、いかに定住化を図って、地域を魅力化していくのかについても大きなアピールポイントになっています。国も求めています。3つ目に、新しいカラーということで農業の法人化だとか新しい技術をどんどん入れて本当に働きやすい農業を作っていくことです。これは私が勝手にグリーンカラーと言っていますが、これについて、委員に詳細な分析をしていただきまして、今日の資料には出ていませんが、ここも農業の後継者、あるいは後継組織といったトレンドを捉えていくという意味ではこの辺の3つが打ち出しするところではないかと思っています。これはこれで素晴らしい総合戦略になりましたので、その裏付けになった3つのプロジェクトを組み立てていただきたいと思います。あとは、はったりを大いにやっていただきたいと思います。袋井市を見てもはったりが強いです。まず、用語を出して突き進んでいき、お金を取っていく。そのうちに走りながら事業の肉付けができてしまうのです。堅実な菊川市ではいらっしゃいますが、素晴らしい質実剛健、報徳思想もあると思いますが、そういう方向性でぜひがんばっていただきたいと思います。各部局長さんは知恵を絞っていただいて、地方創生交付金を取ってくるようにがんばっていただきたいと思います。何か補足はありますか。

委員：一言だけよろしいでしょうか。いまの関連ですけれども、K P I で新しく新規農業者の数を管理していますが、それに対する事業は従来の継続事業になっています。会長が言ったことと同じことになりますが、この戦略を作る一番初めの時に、事業を網羅して色々な継続事業をやることは仕方がないことですが、その中に1つ小さなダイヤモンドを置きたいとずっと話をしたことがあります。今回もこういうことをやらないといけないのですけれども、具体的に新規農業者を増やす施策はこれだとは言にくいと思います。今日、こと京都の話がありましたが、京都は京野菜や九条ねぎといった素材があってこのような話になったのでしょうかけれども、静岡県で身近の様子を見ると、菊川市では鈴生さんのレタス栽培だと思います。元々レタスは森町が盛んで、鈴生さんはそんなに大きくはやっていなかった。もう1つ有名なのが浜松の京丸園さんです。元は農家でしたけれども細ねぎという1つの名だけで大きくなり、いまはいろいろな種類をやっていきます。いわゆるグリーンカラーになったのです。それから、沼津の渡辺園芸さんもクレマチスを導入して大きくなっています。これには個人の努力があったのですけれども、この地域でも個人でもしょうがないですが、何か菊川市で新しいものを生み出すことをバックアップする事業をやろうというのがあるでもいいかと思います。ただ、個人にお金を出すことには色々な問題があるでしょうけれども、何か特化したものが欲しい。鈴生さんでは元従業員数人がのれん分けをして真剣に取り組んでいます。そういうわけで、新規農業者を増やすために、何かが必要。掛川市ではオリーブを進めています、どんなことをやっているのかはわかりません。いままで、菊川の素材はお茶とお米しかなかったもので、難しいことですが、何か新しいことに手を挙げて、新しい作物をやってみたいという人には行政がバックアップするような事業を、J A などと相談しながらタイアップしてやることをちょっと考えてもらえれば、K P I を達成するための具体策が見えてくるのではないかと思います。

会長：ありがとうございます。非常に力強いご提言がありました。あと10分程になってまいりましたが、若い女性が出て行ってしまうことに対して、西部地域局では何か対策はありますか。

委員：具体的な対策はまだ出来ていませんが、去年の11月に西部地域サミットを開催し、西部地域の首長と知事が話し合いをしました。そこで、森町長からそういったことのために、若い女性の職員を集めて会議を開き、意見を出し合ってもらったらどうかという意見をいただきました。それで、いま準備をしているのが、各市町に協力していただいて、若手の女性を出していただくのと同時に、大学生にも参画してもらい、若い女性の視点から議論をしてもらいたいことを想定しまして、年度明けくらいにキックオフができるように準備をしています。それと、1点外国人の関係についてよろしいでしょうか。いまよく見てみますと、就業について人に視点をあてると、若者、女性、高齢者の就業支援は戦略の中に入っていますが、産業界からするとすごく人手不

足があって、おそらく農業や福祉の分野もそうだと思いますが、外国人を活用したいところがあると思いますが、残念ながらこの戦略には、多文化共生で暮らしやすさという視点はありますが、外国人をどうやって活用していくかという視点は落ちていきますので、この点を入れておいた方が良いのかと思います。実は鈴木さんが外国人活用のプランを考えていると伺っていますので、何らかの形で事業化が可能かと思しますので、その点をお考えいただければと思います。

会 長： 概ね予定の時間となりましたが、その他にご意見はありますでしょうか。あるいは、事務局からいかがでしょうか。

事 務 局： 会長からは以前からはったりでもいいから何かが必要と言われており、全体のメリハリよりも事業のメリハリが必要と言われていましたが、なかなかそういうところまでいけなかったことは申し訳ないと思っています。今日の会議で出ました、表紙にスローガンやキャッチフレーズをわかりやすく入れてアピールをしていくことについては、多くの委員から意見をいただきましたので、そういうところは検討していきたいと思っています。新規農業者のK P Iの指標の項目については、内容的には変わらないと思いますが、委員からご意見がありましたので変えていきたいと思っています。外国人の活用については、複数の委員からご意見をいただきました。主な事業のところに入れるまではいかないと思いますが、主な取り組みの中に多文化共生や自己実現の項目がありますので、今後やっていく中で事業化ができればと思います。会長をはじめ複数の委員からも郷土愛、多文化共生、農業の法人化のところでご指摘をいただいたと思いますが、主な取り組みのところまではおおむね了承をいただけたと思いますので、主な事業のところはこれだけで終わりではなく、事業を進めていく中で必要なものはどんどん加えていくということで対応していきたいと思っています。

会 長： かなり読み込める内容になっていると思いますので、あとは具体的な事業の申請の時に工夫していただければと思います。あと、市民向けにきちんと頭に入るようなキャッチフレーズをよろしくお願いします。

委 員： お知らせをさせてください。成人式の後、成人された赤堀佟さんという方が独り舞台をやられて、私が取材いたしました。日曜日の「元気！しずおか人」でその様子をご紹介いたします。菊川市はいいものをお持ちで、去年は田んぼアートをかなり丁寧に取材いたしました。それから、棚田やエムスクエア・ラボもずっと取材しておりますので、早めに言っていただければ年間計画としても取材することもできます。1つ良いシーンだと思ったことは、この独り舞台の時にNHKさんが来ていて、1人で来ていたのでマイクが持てなくて、市の広報の方がマイクを持ってあげている姿がとてもがんばってらっしゃるなと思いました。

会 長： かなり充実した審議になったと思います。それでは進行を事務局にお返しいたしま

す。

事務局： 大変熱心なご審議をいただき、たくさんのご意見いただきましてありがとうございました。今日いただいたご意見をさらに検討し、反映できるものは反映して最終案とさせていただきますと思います。こちらの最終案を作りましたら、パブリックコメントにより市民の方に公表し、ご意見をいただきながら、年度末までに最終の完成までもっていきたいと思います。委員の皆さまについては、完成したものをご提供させていただいて、ご報告とさせていただきますと思いますのでよろしくお願いいたします。これまで様々なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。最後に副会長より閉会のご挨拶をお願いいたします。

4 閉会

副会長： お疲れさまでした。菊川市でもこの会議でSDGsのお話があったと思いますが、虹色のバッチは職員の方は付けないのですか。いま発注しているところなのですね。いまは仕事をしていないのですけれども、襟にバッチを付けている人とたまたま家で話をしましたが、このバッチはどうしてつけているのかと聞いても、はっきりとはわかっていませんでした。これは会社から付けるようにと言われて付けているといった程度なのです。他の委員の皆さんは直接関係ないのかもしれませんが、行政の皆さんはバッチを付けていくのですよね。その時にお願いしたいのは、17のゴールがありますので、そのうち菊川市に関係する3つを説明できるようにしていただけたらありがたいと思います。貧困とか飢餓は菊川市には関係ないですよ。だから、菊川市の行政を進めていくうえで必ず3つくらいは関わってくるものがありますので、ぜひその辺りをアピールして行ってほしいと思います。私の感じたことだけを申し上げました。以上で菊川市総合計画審議会を終了いたします。ありがとうございました。